

平成30年度学校評価 評価結果

本年度の重点目標		自ら限界をつくらず、今の自分を越えようと努力する生徒の育成を図る。 ア 主体的な学びを引き起こす授業改善の工夫 イ 豊かな人間性を育む教育活動の工夫 ウ たくましく生きるための健康・体力保持・増進の工夫 エ 充実した教育内容を無理なく継続する経営システムの工夫			
分掌による取り組み					
項目	分野	取り組み内容	具体的方策	評価結果と課題	担当
ア	授業改善	魅力ある授業づくりを目指して授業改善策の検討	①職員間で授業公開する機会を積極的に設け、授業改善につなげる。 ②ICT機器の利用やアクティブラーニング型の授業の積極的な取り組みを促す。	授業改善のきっかけづくりとして、教員対象に2学期に2週間の授業公開を行った。多くの先生方に授業公開をしていただき、教科を超えて授業実践方法の情報を共有する機会とすることができた。今後、対話的で・主体的な授業実践を目指して検討を進めていきたい。	教務部
イ	情報	公開ホームページの充実	① ニュースページを利用し、本校の教育活動についてこまめに伝える。 ② 既存の内容について精査し、より細かく充実した内容にしていく。	各行事活動について年間を通してわかりやすく写真とともに紹介してきた。これを見ればその様子がわかるようになってきました。また、部活動の活動については大会実績等も年度ごとに紹介するようになった。在校生・卒業生や保護者はもとより、本校を希望する中学生・地域の皆様にとってもわかりやすいウェブページ作りを努めていきます。	情報図書部
イ	キャリア教育	生徒の自発的な体験活動の啓発	① 進路通信、掲示、クラス掲示などにより、頻繁に体験活動の紹介を行う。 ② オープンキャンパスや夢ナビ参加の計画を立てさせる。	進路通信や掲示の有効利用、さらに学年団の協力によって、キャリア体験の啓発活動はかなり定着してきた。一方で昨年に比べて参加者の実人数が急増したわけではなく、オープンキャンパス等を除くとキャリア体験者は全校生徒の10%ほどにとどまっている。参加者を増やす手立てとしては、天白生を対象とした高大連携の企画を教科と連携しながら計画実施していくことが考えられる。	進路指導部
イ	生徒会活動	部活動や学校行事、地域活動への積極的な取組を通して、自ら考え行動できる生徒の育成を目指す	①文化祭のクラス発表の立案、運営に際し、各自に役割、責任を持たせ、協力する場面を設定する。 ②体育祭での縦割りの応援練習や競技、さらに部活動を通して他学年との交流をもたせる。 ③福祉施設との交流やボランティア、竹林整備ボランティアなどへの積極的な参加を呼びかける。 ④一年を通じた様々な取組みを取材、記録し校誌『爽風』に発表する。	文化祭では、昨年の反省から改善出来る点は改善し、より内容を充実させる。また体育祭においては、生徒主体での運営を目指す。生徒会執行部に関しては、生徒会活動に携わった生徒には、やりがいを見いだして成長しているものもいるので、来年度はさらに様々な活動により自主的に取り組み、自ら考え行動する生徒を育成していきたい。	特別活動部
イ	安全	防災意識の向上を図る	1 避難訓練について、今後3年間でバリエーションを増やす。 2 防災講話において、シェイクアウト訓練を導入する。 3 学校祭に、防災関連活動を導入する。 4 [減災だより]を発行する。	保健部として、具体的方策をし、積極的に実行することはできたが、職員、生徒ともに、まじめには、取り組んではくれたものの、意識の向上については十分とはいえない。今後、避難訓練については防災訓練と名称を変更し、避難経路の確認のみならず、シェイクアウト訓練を抱き合わせ、有識者からの講話、映像などを取り入れることにより、更なる防災意識の向上を図りたいと考える。	保健部
ウ	国際交流	国際交流推進のための方策を検討	①大学等、外部の機関や団体と連絡を取り、どのような協力を得られるか模索する。 ②総合学習、学校祭等の時間を活用するなど、教科横断的な活動を検討する。	各クラスの有志生徒中心に主体的な活動を行うことができ、留学生との交流は異文化理解を深める貴重な経験となった。今後は、協力してくれる留学生をより確実に集めることが課題である。また、有志生徒が考える企画内容の反省点・改善点を記録として残し、より良いものになるように取り組んでいきたい。	総務部
ウ	交通安全指導	交通安全意識の向上と遅刻の減少	①全職員に共通理解を得るとともに、警察との連携を図る。 ②職員会で交通安全に関する情報提供をする。 ③生活交通委員会の交通安全啓発活動を促進する。	自転車無事故・無違反200日ラリーや交通安全キャンペーンなど地域・警察との連携を展開できた。「生徒指導部だより」を発行し、交通安全などを生徒に周知した。しかし、生徒の交通マナーには問題が多く、自転車に関する交通事故も昨年度より増加している。更なる取組が必要である。	生徒指導部
ウ	生徒相談	毎日の健康観察を通して、支援の必要な生徒の早期発見を図る。さらに、チームで支援ができるよう連携体制を整える。	①不適応状態になった生徒、保護者に適切な援助をおこなない、必要に応じてSCやSSWにつなげ連携を図るように努める。 ②生徒相談室の広報活動を充実させる。 ③健康観察、こころのアンケート等を通して生徒の心身の状態を早期に把握する。	学校不適応生徒が増える中、担任、相談部と情報を共有しながら連携を図り、SC、SSWによる専門的な立場からの指導・助言を受けながら手厚い支援を行っていきたい。また、保護者、生徒に向けて、「相談室だより」の定期的発行や渡り廊下にポスターを掲示するなど相談関係の啓発をさらに充実させていきたい。	生徒相談部
ウ	いじめ対策	いじめの早期発見と、適切な事案対処	①いじめの情報収集、事案対処に係る「いじめ対策委員会」の役割を具体化し、教職員間で共有するとともに、「いじめのサイン発見シート」の配布などにより生徒や保護者にも通知する。 ②早期発見・事案対処の手順等(マニュアル)を定め、いじめの認知について教員間の共通理解を深める。 ③「こころのアンケート」を実施し、いじめの早期発見、適切な対処につなげる。	「いじめのサイン発見シート」を配付したり、「こころのアンケート調査」を活用し、生徒の悩みを持つ生徒の実態を教員間で共有することができた。来年度以降もアンケートを活用した情報共有を継続するとともに、いじめ防止や早期発見に関する啓発活動を委員会としても取り組んでいきたい。	いじめ対策委員会
エ	安全衛生	勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止	①各教職員が在校時間の状況を記録し、月ごとに集計する。 ②1ヶ月の時間外在校時間が80時間を超える教職員に対して、面接希望の有無を確認する。 ③集計結果等を安全衛生委員会において確認する。	対象となる教職員全員が、在校時間の状況を報告した。また、1ヶ月の時間外在校時間が80時間を超えた場合、月ごとすべての面接希望を確認できた。この結果を安全衛生委員会の議事とすることで、業務の適正化や教職員の健康障害防止についての意識を高めるよう働きかけた。来年度も同様に取組み、持続可能な教育活動を目指していきたい。	安全衛生委員会
学年による評価					
第1学年	学習指導・生徒指導	学習習慣の定着と基本的な生活習慣の確立	①課題の提出を通して、家庭で学習する習慣を身につけさせる。 ②遅刻せずに登校することを通して、時間を守る習慣を身につけさせる。	寒い時期に向かう2学期に、そうではない1学期と同様に遅刻数を抑えることは容易なことではなかったが、課題提出については、かなり好成果をあげることができた。生徒一人一人の実情に応じた、よりきめの細かい、個別的な指導を充実させることが必要であろう。	
第2学年	進路指導	進路目標の具体化	①必要な進路情報を適切な時期に提供し、進路に対する意識を高め、進路目標を具体化する。 ②家庭学習が習慣化するよう、課題提出や家庭学習を積極的に促す。	全体的に進路に対する意識が高まり、学習意欲も向上した。引き続き進路に対する意識の向上、学習へ取り組み姿勢の深化を促すとともに、生徒、保護者の進路希望を十分に把握し、ともに納得して進路を選択できるように支援する。	
第3学年	進路指導	進路目標の実現	①進路に関する最新の情報を提供しながら、個人の目標、適性に応じた進路指導を心掛ける。 ②自習室の設置や学習講座の開講等を通して学習習慣を定着させ、目標実現への意識を高める。	年間を通して、進路指導部と協力しながら、個人指導、クラス・学年指導共に適切に行い、生徒一人一人に的確なサポートをしてきた。今後も効果的な進路指導が行えるよう、指導方法のより一層の充実を図ってきたい。	
総合評価		各担当分掌・学年が意欲的に取り組み、相応の成果を上げた。保護者アンケートにおいて、学習・生活・進路・部活動・学校行事など学校生活全般にわたるアンケート項目の多くで一定の満足度を得ていることが確認できた。来年度以降も新たな課題に対応し、更に活力と魅力のある学校づくりに粘り強く取り組んでいきたい。			